

# 第3号 稲作管理特報

平成29年5月12日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

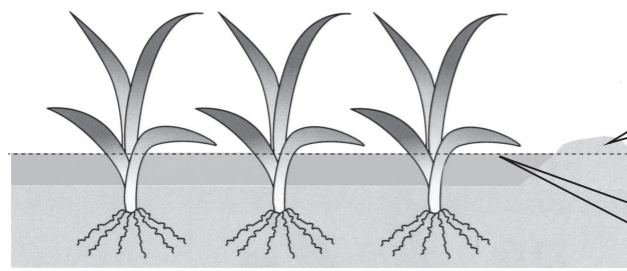
現在、田植え作業は順調に進んでいます。

これからは、初期の分げつを早期に確保する為の水管理が大切です。  
稲が活着したら、浅水管理を徹底し、分げつの発生を促しましょう。

## 1 田植え後の水管理 ～活着後の浅水管理がポイント～

- 田植え後、速やかに入水し、活着するまでの2～3日間は、やや深水状態を保ってください（葉の一部が水面から出ている程度）
- 活着後は、チラ干しにならない程度の浅水管理に切り替え、田水温の上昇に努めてください。
- 入水は朝または夕方の短時間で行い、日中は止水し田水温の上昇に努めてください。
- 田の「ワキ」やアオモの発生がみられたら、水の入れ替えとあわせて、軽い田干しを行ってください。

※ かけ流しなどせずに、用水をみんなで有効に活用しましょう。



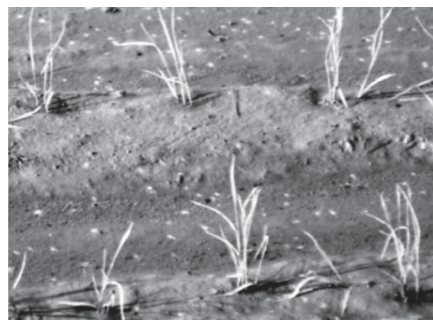
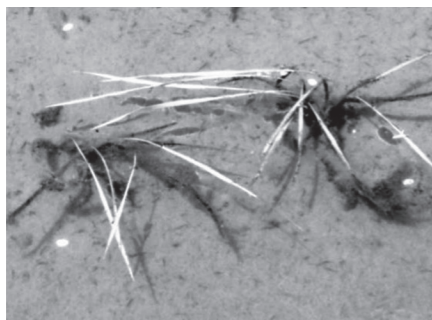
チラ干しになると、雑草が発生しやすいので注意！！

浅水管理で田水温を高め分げつと生育を促進

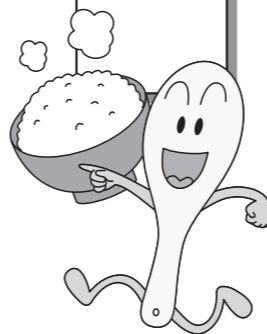
### <分げつが悪くなる要因>

① 深水による田水温の低下・苗の徒長

② チラ干しによる苗の傷み



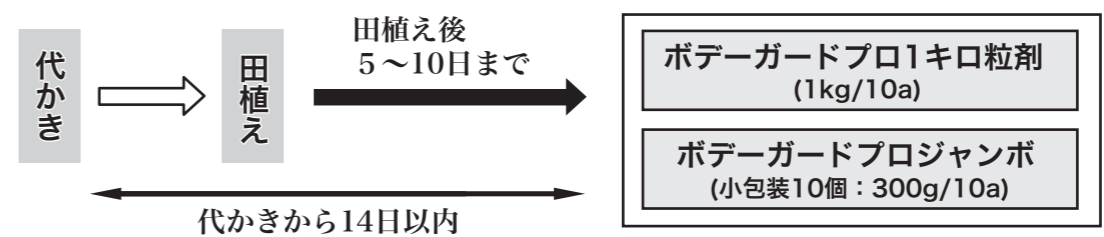
「浅水管理で分げつを早く確保しよう！」



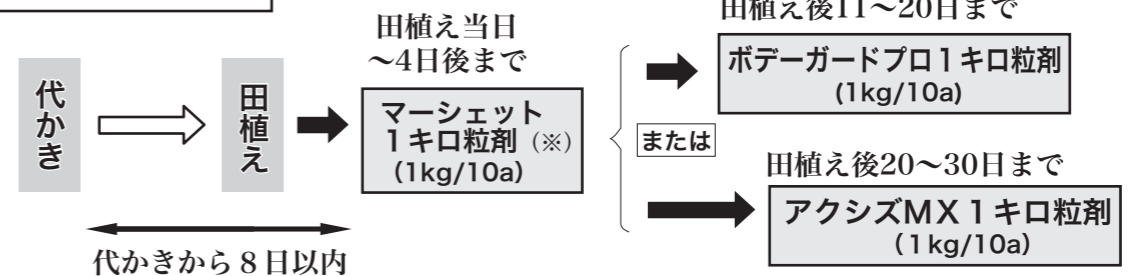
## 2 除草剤の適期散布 ～適期内の散布がポイント～

- 代かき～除草剤散布までの期間が長くなると雑草の生育が進み、除草剤が効きにくくなるので、遅れないように散布する。
- 散布前にたっぷり入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つ。水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと水を入れ、田面が露出しないようにしましょう。また、散布後7日間は落水やかけ流しは行わない。
- 一発処理剤や中期剤の散布前には、水尻や畦畔からの漏水がないか確認するとともに、水の入れ替えを行う。

### 一回処理の場合



### 二回処理の場合



※マーシェット1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、薬害が生じやすいので、使用時期や使用上の注意事項<特報第2号を参照>をお守りください。

### 除草剤の使用上の注意事項

- 水温が高いときは、水の入れ替えを行ってから散布する。
- 漏水の激しいほ場では使用しない。
- 極端な浅植えにしない。
- 散布後5日間は、湛水状態を保つ。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培履歴簿に必ず記帳しましょう。